

都市再生整備計画事業 事後評価シート

豊田都心(センターコア)地区

平成26年3月

愛知県豊田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	地区名	豊田都心(センターコア)地区			面積	290				
交付期間	H21 ~ H25年度	事後評価実施時期	H25年度	交付対象事業費	3,447	国費率	0.349						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 【道路】市道蔵前陣中線無電柱化、(都)豊田則定線無電柱化【高質空間形成施設】市道蔵前陣中線整備、(都)豊田則定線整備【高次都市施設】地域交流センター										
	提案事業		【地域創造支援事業】福祉拠点施設整備事業、中央保健センター環境整備事業、まちなか宣伝事業、駅周辺緑化推進事業【事業活用調査】まちづくり事業活用調査【まちづくり活動推進事業】まちづくり事業活用調査活動支援事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】①市道中町線無電柱化、②市道旧城線無電柱化【地域生活基盤施設】③豊田市産業文化センター駐車場整備、④サイン施設整備【高質空間形成施設】⑤生活・回遊空間整備、⑥緑陰歩道のリニューアル			削除/追加の理由		①② 計画期間以降施行のため削除 ③④⑤⑥ 実施時期延期のため削除			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		提案事業	【地域創造支援事業】冬の魅力創造事業			関連事業への移行		事業区分の変更のみであり、指標への影響はない					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初変更	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	(総合所見)	予定時期			
	指標1	歩行者通行量(平日)	人/日	22,578	H19	23,105	H25	23,159	23,396	○	あり なし	道路の無電柱化、景観整備や地域交流センター、福祉拠点の整備等により、快適に歩き易くなり、また都心機能が強化されたため、歩行者通行量が増え、にぎわいが増した。	H27年3月
	指標2	鉄道1日乗降客数	人/日	38,638	H19	39,038	H25	43,174	41,779	○	あり なし	道路の無電柱化、景観整備や地域交流センター、福祉拠点の整備等により、快適に来訪しやすくなり、また都心機能が強化されたため、駅・鉄道利用や周辺部利用が促進された。	H26年5月
	指標3	センター施設利用者数	人/月	5,700	H20	10,000	H25	9,874	12,300	○	あり なし	地域交流センター、福祉拠点施設及び中央保健センター環境整備や、(仮称)豊田市文化交流センター整備等により都心機能が強化され、中央福祉センターの利用者数が増えた。	H26年5月
	指標4	満足度	-	-0.42	H19	-0.32	H25	0.98	0.50	○	あり なし	道路の無電柱化、景観整備や地域交流センター、福祉拠点の整備、各種関連事業等により都心機能が強化され、来訪者の利便性も向上した。これにより来訪者の満足度が計画期間前のマイナス評価からプラス評価に転じた。	H28年3月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1	センターコア地区における人口	人	16,922	H20			17,448	18,580		あり なし	拠点的な都心機能の整備、市街地整備や市駅総合整備等の基盤整備、景観整備等により利便性ととも魅力が向上し、計画期間以前と比べて人口がより増加している。	H26年5月
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	H23年度中間評価・モニタリングによる事業進捗状況把握、円滑な執行管理		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も、中間評価・モニタリングにより事業進捗状況を把握し、円滑な執行管理を図る				
	住民参加プロセス	まちづくり協議会によるまちづくり活動の継続 行政と住民のパートナーシップの継続		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も、行政と住民のパートナーシップを継続する				
	持続的なまちづくり体制の構築	豊田まちづくり(旧TMO)などと共働で、計画策定、事業推進、イベント、コーディネート活動など継続的なまちづくり活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も、機会を捉え、豊田まちづくり(旧TMO)などと共働してまちづくりを推進する				

様式2-2 地区の概要

豊田都心(センターコア)地区(愛知県豊田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 多核ネットワーク型都市の中心を支える、都心(センターコア)機能の強化 目標1: 都心機能の強化により、回遊性・拠点性の高い中心市街地の形成を図る 目標2: 緑あふれる環境形成を共働で推進することにより、質の高い都心形成を図る 目標3: 安全・安心機能の強化により、総合的な中心市街地の基盤強化を図る	歩行者通行量(平日)	単位:人/日	22,578 H19	23,105 H25	23,396 H25
	鉄道1日乗降客数	単位:人/日	38,638 H19	39,038 H25	41,779 H25
	センター施設利用者数	単位:人/月	5,700 H20	10,000 H25	12,300 H25
	満足度	単位:—	-0.42 H19	-0.32 H25	0.50 H25
	センターコア地区における人口	単位:人	16,922 H20	—	—

○関連事業:

- ・安永川流域水辺環境整備事業
- ・国道155号歩道整備検討事業
- ・駅前通り北地区市街地整備事業
- ・(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業
- ・中心市街地バス事業
- ・老舗街道づくり推進事業
- ・都市交通システム整備事業

○関連事業:

- ・毘森公園整備事業

□提案事業: 地域創造支援事業

- ・まちなか宣伝事業
- ・冬の魅力創造事業

□提案事業: 事業活用調査


- ・まちづくり事業活用調査

□提案事業: まちづくり活動推進事業

- ・まちづくり活動支援事業

■基幹事業: 道路

- ・(都)豊田則定線無電柱化



■基幹事業: 高質空間形成施設


- ・(都)豊田則定線整備

○関連事業:

- ・豊田市ふるさと歴史館整備事業

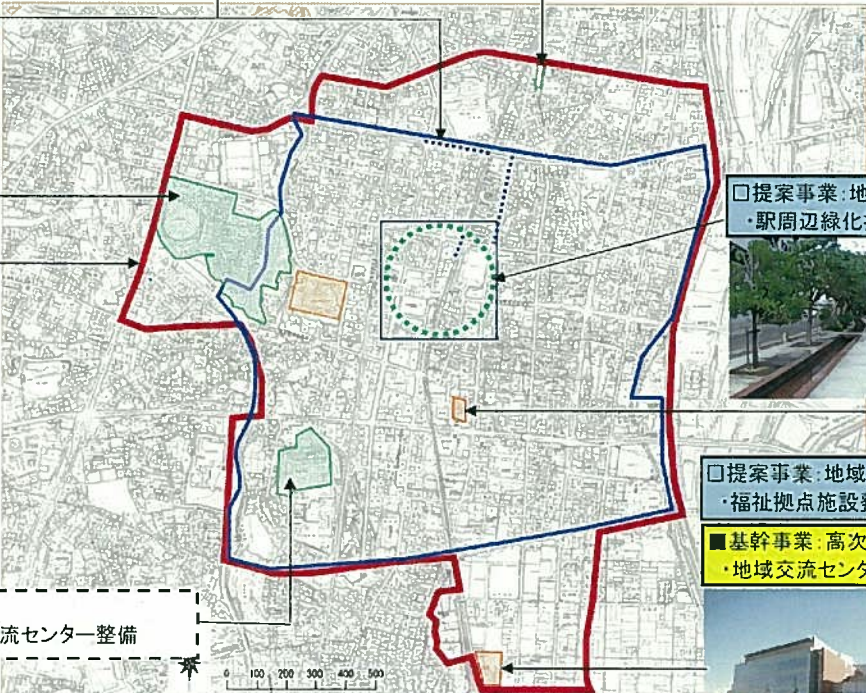
■基幹事業: 道路

- ・[市]蔵前陣中線無電柱化



■基幹事業: 高質空間形成施設

- ・[市]蔵前陣中線整備



□提案事業: 地域創造支援事業
・駅周辺緑化推進事業

□提案事業: 地域創造支援事業
・中央保健センター環境整備事業

□提案事業: 地域創造支援事業
・福祉拠点施設整備(中央福祉センター)

■基幹事業: 高次都市施設
・地域交流センター整備

○関連事業:
・(仮称)豊田市文化交流センター整備

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

まちの課題の変化

- ・都心機能の強化やユニバーサルな公共空間整備により、歩行者数が増加し、回遊性を回復しつつある
- ・都市福利機能の充実により高齢化社会に対応でき、街全体の活性化が図られつつある
- ・緑と水の環境を回復しつつあり、また防災面や安全・安心な生活環境となりつつある
- ・以上の変化に伴い、人口増加もさらに伸びつつあり、また来街者の満足度が計画期間以前のマイナス評価からプラスの評価に転じ、格段に向上した

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・都心機能の強化及び回遊性を向上させる配置、ユニバーサルな公共空間整備、水と緑の環境、防災等、都心地区の整備を今後も継続する
- ・店舗の魅力化や、商業、業務、サービス集積の一層の促進を図る
- ・整備を延期した箇所(生活空間、緑陰歩道リニューアル、豊田市産業文化センター駐車場、サイン施設等)について、次期の機会を捉えて整備していく

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- ~~添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1 歩行者通行量(平日) 23,700人/日 指標2 鉄道1日乗降客数 45,300人/日 指標4 満足度 -0.2	指標1 歩行者通行量(平日) 23,105人/日 指標2 鉄道1日乗降客数 39,038人/日 指標4 満足度 -0.32	都市再生整備計画に記載した事業の大幅な削除に伴い、市民や来訪者に対しても大きな影響があることが予想される。このため、実施事業における総事業費の減少割合に基づき、目標値を下方修正することで、適正な目標設定を図る。
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道蔵前陣中線無電柱化	243	305m、道路改築、電線共同溝	125	305m、道路改築、電線共同溝	事業内容精査による一部事業の高質空間形成施設への移行。再精査による事業費減	事業種別の変更のため、数値目標への影響は無い。事業費減は数値目標への軽微な影響があるが数値目標は据え置く。		●
道路	市道中町線無電柱化	105	170m、道路改築、電線共同溝	—	—	都心交通計画に基づき、計画期間後に施行するため削除	数値目標への軽微な影響はあるが、他の事業のより大きな変更による数値目標の変更により対応した		
道路	市道旧城線無電柱化	105	170m、道路改築、電線共同溝	—	—	都心交通計画に基づき、計画期間後に施行するため削除	数値目標への軽微な影響はあるが、他の事業のより大きな変更による数値目標の変更により対応した		
道路	(都)豊田則定線無電柱化	276	220m、道路改築、電線共同溝	223	220m、道路改築、電線共同溝	事業内容精査による一部事業の高質空間形成施設への移行。再精査による事業費減	事業種別の変更のため、数値目標への影響は無い。事業費減は数値目標への軽微な影響があるが数値目標は据え置く。	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	豊田市産業文化センター駐車場整備	57	A=8,050㎡、300台程度	—	—	実施時期が延期となったため削除	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く		
地域生活基盤施設	サイン施設整備	13	総合・誘導・方向案内設置数 7箇所	—	—	実施時期が延期となったため削除	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く		
高質空間形成施設	(都)昭和町整備	—	—	77	L=305m,W=16m バリアフリー、修景整備等	事業内容精査による一部事業の道路事業からの移行。再精査による事業費減。	事業種別の変更のため、数値目標への影響は無い。事業費減は数値目標への軽微な影響があるが数値目標は据え置く。		●
高質空間形成施設	市道蔵前陣中線整備	32	305m、バリアフリー、修景整備等 W=16m	77	305m、バリアフリー、修景整備等 W=16m	事業内容精査による道路事業の一部を移行	一部事業の移行のみであり、指標への影響はない		●
高質空間形成施設	(都)豊田則定線整備	19	220m、バリアフリー、修景整備等、W=25m	84	220m、バリアフリー、修景整備等、W=25m	事業内容精査による一部事業の道路事業からの移行。再精査による事業費減。	事業種別の変更のため、数値目標への影響は無い。事業費減は数値目標への軽微な影響があるが数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	生活・回遊空間整備	48	3路線、L=480m,W=4~8m、幹線道路以外の路地バリアフリー、修景整備等	—	—	実施時期が延期となったため削除	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く		
高質空間形成施設	緑陰歩道のリニューアル	95	L=180m,W=12m、一部水路の暗渠化、植栽の再編整備、オープンテラス等空間	—	—	関係事業者との事業調整による実施時期延期のため削除	数値目標への影響があるため、指標の数値目標を下方修正した		
高次都市施設	地域交流センター	2,083	4,740㎡、ホール約2,100㎡、4F一般会議室スペース約1,600㎡等	1,654	4,891.5㎡、ホール約2,100㎡、4F一般会議室スペース約1,600㎡等	工事入札差金による事業費変更	事業費変更のみであり数値目標への影響は無い	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境 整備事業									
優良建築物等整備 事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整備 事業									
住宅地区改良事 業等									
都心共同住宅供 給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等 整備									
防災街区整備事 業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	福祉拠点施設整備事業	1,446	中央福祉センター3,290㎡、保健・福祉情報提供、保健・福祉団体活動拠点	1,150	中央福祉センター3,290㎡、保健・福祉情報提供、保健・福祉団体活動拠点			●	
	中央保健センター環境整備事業	130	1,000㎡、屋上緑化や太陽光発電等の環境整備	102	1,000㎡、屋上緑化や太陽光発電等の環境整備			●	
	冬の魅力創造事業	85	光の装飾設置、撤去、イベント等(豊田市駅～豊田スタジアム、光の装飾演出)	—	—	定期的な意味合いを持つことから、提案事業から関連事業へと移動	数値目標への影響があるため、指標の数値目標を下方修正した		
	まちなか宣伝事業	100	まちなか宣伝の企画・調査・実施、新たなCIの創造	6	まちなか宣伝の企画・調査・実施、新たなCIの創造	事業効果精査により事業規模の縮小	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く	●	
	駅周辺緑化推進事業	50	路地園芸、街角ガーデン化、個性的な花を活かした地区景観創造等、市民参加	12	緑化社会実験、路地園芸、街角ガーデン化、個性的な花を活かした地区景観創造等、市民参加	整備箇所へのペDESTリアンデッキ耐震構造等実施条件の精査により、事業規模縮小	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く		●
事業活用調査	まちづくり事業活用調査	33	民間プロジェクト活用、緑化推進・環境対策、都心居住推進策等、交通拠点機能・賑わい機能の段階的整備方策	9	・緑化推進対策、環境対策、都心居住の推進策等調査 ・中間評価・モニタリング、事後評価及びアンケート調査	事業効果の精査により事業規模の縮小。緑化推進対策は事業内容精査による事業費減。	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く	●	
まちづくり活動推進事業	まちづくり活動支援事業	25	まちづくり協議会によるまちづくりワークショップ開催等、人材育成等	5	まちづくり協議会によるまちづくりワークショップ開催等、人材育成等	事業効果の精査により事業規模の縮小	数値目標への軽微な影響はあるが、数値目標は据え置く		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
安永川流域水辺環境整備事業			550	550	H21～25	H21～25	円滑に進捗中	
国道155号歩道整備検討事業		国道155号(名鉄豊田市駅周辺地区)	未定	未定	H20～24	H20～24	完了	
(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業		名鉄豊田市駅	未定	未定	H21～23	H21～23	完了	
老舗街道づくり推進事業		老舗街道・竹生線通りの活性化	未定	未定	H20～25	H20～25	円滑に進捗中	
中心市街地バス事業		中心市街地	未定	未定	H17	H17	完了	
(仮)豊田市駅前通り北地区市街地整備事業		豊田市駅前通り北地区	未定	未定	H21～28	H21～28	円滑に進捗中	
昆虫公園整備事業			3,900	3,900	H23～27	H23～27	円滑に進捗中	
豊田市ふるさと歴史館整備事業			2,000	2,000	H21～25	H21～25	円滑に進捗中	
(仮称)豊田市文化交流センター整備事業			3,000	3,000	H22～24	H22～24	完了	
中央保健センター整備事業			9,700	9,700	H21～23	H21～23	完了	
冬の魅力創造事業			—	85	—	H21～25	円滑に進捗中	
都市交通システム整備事業			226	226	H19～22	H19～22	完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
				基準 年度		基準 年度		目標 年度					あり	なし		
指標1	歩行者通行量(平日)	人/日	①新豊田駅西駐車場南、②豊田市駅西口ペデ ストリアンデッキ、③緑陰歩道マンガ喫茶並熱 帯(旧河合塾)前、④三菱東京UFJ銀行前、⑤ 参考館前の5箇所の歩行者通行量の合計	23,059	H15	22,578	H19	23,105	H25	モニタリング	H23	23,159	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	23,396	事後評価	○		
指標2	鉄道1日乗降客数	人/日	名古屋鉄道・愛知環状鉄道から提供される資 料より、4月～翌3月の豊田市駅および新豊田 駅の乗降客数の合計	33,640	H15	38,638	H19	39,038	H25	モニタリング	H23	43,174	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	41,779	事後評価	○		
指標3	センター施設利用者数	人/月	中央福祉センター及び地域交流センターの利 用者数			5,700	H20	10,000	H25	モニタリング	H23	9,874	モニタリング	△		
										事後評価	確定 見込み ●	12,300	事後評価	○		
指標4	満足度	-	市民意識調査または街頭アンケートによる。 [不満×(-2)+やや不満×(-1)+どちらともい えない×(0)+やや満足×(+1)+満足×(+ 2)÷票数	-0.71	H15	-0.42	H19	-0.32	H25	モニタリング	H23	0.98	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	0.50	事後評価	○		
指標5									H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	都心機能の強化により歩行者の利便性と快適性、拠点性が強化され、目標値を上回る評価値となったため、目標達成度○とした	
指標2	駅周辺を利用しやすい環境づくりと賑わい環境整備により、目標値を上回る評価値となったため、目標達成度○とした	
指標3	福祉拠点・地域交流拠点施設の整備により、都心における交流人口が増大され、目標値を上回る評価値となったため、目標達成度○とした	
指標4	駅周辺を利用しやすい環境づくりと、賑わい環境整備により、来訪者の満足度が格段に高まり、目標値を上回る評価値となったため目標達成度○とした	
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	センターコア地区にお ける人口	人	豊田市統計書(住民基本台帳ベース)によるセ ンターコア地区の人口	16,745	H17	16,922	H20	モニタリン グ	17,448	豊田都心(センターコア)地区 における都市再生整備計画 事業の実施が、人口(セン ターコア地区内)の増加に寄 与していると考えられるため。	
								事後評価	18,580		
その他の 数値指標2								モニタリン グ			
								事後評価			
その他の 数値指標3								モニタリン グ			
								事後評価			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・無電柱化や駅周辺緑化等により、道路空間の景観が向上したことにより、住民の清掃活動が始まるなど、住民による持続的なまちづくりに波及している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中間評価・モニタリングによる事業進捗状況把握、円滑な執行管理	予定どおり実施した	● 【実施頻度】 1回 【実施時期】 H23年度 【実施結果】 中間時点において事業進捗状況を把握し、定量化する指標を計測したことにより、執行管理と目標への達成の見通しを得ることができた	今後も、中間評価・モニタリングにより事業進捗状況を把握し、円滑な執行管理を図る
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり協議会によるまちづくり活動の継続 行政と住民のパートナーシップの継続	予定どおり実施した	● まちづくり協議会 実施頻度・時期： 5～7月、月2回 実施結果：参加人数10～13名	今後も、行政と住民のパートナーシップを継続する
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
豊田まちづくり㈱(旧TMO)などと共働で、計画策定、事業推進、イベント、コーディネート活動など継続的なまちづくり活動	予定どおり実施した	● イベント実施： ○八日市 毎月8日に地元商店街で市場を開く ○打ち水大作戦 毎年1回開催	豊田まちづくり㈱ (出資者) 豊田市、豊田商工会議所、トヨタ自動車、他 (経営理念) 豊田市まちづくりのために、行政・会議所・事業者及び地域の方々と共働して、地域発展に寄与する各種事業を推進	今後も、機会を捉え、豊田まちづくり㈱(旧TMO)などと共働してまちづくりを推進する
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
豊田都心(センターコア)地区都市再生整備計画事業庁内検討	都市整備課、街路課、財産管理課、公園課、商業観光課、市民福祉部総務課	事後評価シート原案公表前に関係各課へ回覧・確認(平成25年11月)	都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4		
指標名		歩行者通行量(平日)	鉄道1日乗降客数	センター施設利用者数	満足度		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	道路 市道蔵前陣中線無電柱化	◎	道路の無電柱化、景観整備や地域交流センター、福祉拠点の整備等により、快適に歩き易くなり、また都心機能が強化されたため、歩行者通行量が増え、にぎわいが増した。	◎	道路の無電柱化、景観整備や地域交流センター、福祉拠点の整備等により、快適に歩訪しやすくなり、また都心機能が強化されたため、駅・鉄道利用や周辺部利用が促進された。	◎	道路の無電柱化、景観整備や地域交流センター、福祉拠点の整備、各種関連事業等により都心機能が強化され、来訪者の利便性も向上した。これにより来訪者の満足度が計画期間前のマイナス評価からプラス評価に転じた。
	道路 (都)豊田則定線無電柱化	◎		◎		◎	
	高質空間形成施設 市道蔵前陣中線整備	◎		◎		◎	
	高質空間形成施設 (都)豊田則定線整備	◎		◎		◎	
	高次都市施設 地域交流センター	◎		◎		◎	
提案事業	地域創造支援事業 福祉拠点施設整備事業	◎	◎	◎	◎		
	地域創造支援事業 中央保健センター環境整備事業	○	○	◎	○		
	地域創造支援事業 まちなか宣伝事業	○	○	◎	◎		
	地域創造支援事業 駅周辺緑化推進事業	◎	◎	◎	◎		
	事業活用調査 まちづくり事業活用調査	○	◎	◎	◎		
	まちづくり活動推進事業 まちづくり活動支援事業	◎	◎	◎	◎		
関連事業	安永川流域水辺環境整備事業	○	○	◎	○		
	国道155号歩道整備検討事業	○	○	◎	○		
	(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業	○	◎	◎	○		
	老舗街道づくり推進事業	○	◎	◎	○		
	中心市街地バス事業	◎	◎	◎	◎		
	(仮)豊田市駅前通り北地区市街地整備事業	◎	◎	◎	◎		
	毘森公園整備事業	◎	◎	◎	◎		
	豊田市ふるさと歴史館整備事業	◎	◎	◎	◎		
	(仮称)豊田市文化交流センター整備事業	◎	◎	◎	◎		
	中央保健センター整備事業	◎	◎	◎	◎		
	冬の魅力創造事業	◎	◎	◎	◎		
都市交通システム整備事業	○	◎	◎	◎			

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	同様の快適な都心地区環境、都心機能強化を継続していく	同様の快適な都心地区環境、都心機能強化を継続していく	同様の快適な都心地区環境、都心機能強化を継続していく	同様の快適な都心地区環境、都心機能強化を継続していく

指標の種別		その他指標1	指標○	指標○	指標○				
指標名		人口							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 市道蔵前陣中線無電柱化	○	拠点的な都心機能の整備、市街地整備や市駅総合整備等の基盤整備、景観整備等により利便性ととも魅力が向上し、計画期間以前と比べて人口がより増加している。						
	道路 (都)豊田則定線無電柱化	○							
	高質空間形成施設 市道蔵前陣中線整備	○							
	高質空間形成施設 (都)豊田則定線整備	○							
	高次都市施設 地域交流センター	◎							
提案事業	地域創造支援事業 福祉拠点施設整備事業	◎							
	地域創造支援事業 中央保健センター環境整備事業	◎							
	地域創造支援事業 まちなか宣伝事業	○							
	地域創造支援事業 駅周辺緑化推進事業	○							
	事業活用調査 まちづくり事業活用調査	○							
	まちづくり活動推進事業 まちづくり活動支援事業	◎							
関連事業	安永川流域水辺環境整備事業	○							
	国道155号歩道整備検討事業	—							
	(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業	◎							
	老舗街道づくり推進事業	◎							
	中心市街地バス事業	◎							
	(仮)豊田市駅前通り北地区市街地整備事業	◎							
	昆虫公園整備事業	○							
	豊田市ふるさと歴史館整備事業	○							
	(仮称)豊田市文化交流センター整備事業	◎							
	中央保健センター整備事業	◎							
冬の魅力創造事業	○								
都市交通システム整備事業	○								

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	同様の快適な都心地区環境、都心機能強化を継続していく				
-------	----------------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
豊田都心(センターコア)地区都市再生整備計画事業庁内検討	都市整備課、街路課、財産管理課、公園課、商業観光課、市民福祉部総務課	事後評価シート原案公表前に関係各課へ回覧・確認(平成25年11月)	都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・商店街によるファサード整備事業、旧TMO(豊田まちづくり㈱)のチャレンジショップ事業をはじめとする商業活性化事業の展開を図ってきたが、市外への消費の流出が止まらない状態にあり、店舗の魅力化とともに、各店舗を回遊できる環境を作ることが必要である。	基盤整備や公共の都心機能の強化により歩行者数が増加し、回遊性を回復しつつある	・店舗の魅力化が残されている ・回遊性はまだ不十分であり、一層の強化が残されている	
・市街地再開発事業をはじめ道路や駐車場等の基盤整備を進めてきた結果、中心市街地のアクセス利便性や土地の有効利用の前提となる都市基盤は相当向上したものの、商業、業務、サービスの機能の集積度は小さく、40万都市の中心市街地としてはスケール感や多様性に乏しい。	基盤整備や公共の都心機能の強化により歩行者数が増加し、回遊性を回復しつつある	商業、業務、サービスの機能の集積度は依然として小さい	
・昭和60年以降整備してきた都市基盤も一部更新が必要なものもみられるとともに、景観やユニバーサルデザインといった、これからの社会ニーズに適合した質を重視した公共空間の再構築と基盤づくりが求められる。	道路空間について無電柱化、バリアフリー、修景整備を整備したことにより、快適な景観となり、またユニバーサルな公共空間となった	・一部、生活空間、緑陰歩道リニューアル等の未整備箇所を残した ・総合・誘導・方向案内のサイン施設整備を延期した	
・中央図書館、総合体育館など各種の都市福利施設の集積を推進してきたものの、今後の高齢化の進行や様々な生活志向を望む市民の増大を踏まえ、中心市街地で受け止める都市福利機能の充実を図り、街全体を活性化するための取組みが求められる。	都市福利機能の充実として、地域交流センターを整備したことにより、高齢化社会に寄与し、街全体の活性化に寄与できた	豊田市産業文化センター駐車場の整備を延期した	
・人口の中心市街地離れが進行し、昭和40年代の3分の2まで減少しているとともに、若年層の流出により高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯の割合が高いことから、多様な居住ニーズに即した住宅地の供給を促し、中心市街地の活性化を支える人口を確保することが課題となる。	豊田都心地区の人口を回復しつつある		
・今後の高齢社会においては、自動車の利用が困難な人も増加してくることから公共交通機関への転換も求められ、公共交通機関によるアクセス性を向上させるとともに、歩行者を中心としたまちづくりが必要である。	都心機能の強化や、無電柱化、バリアフリー、歩きやすい等の環境整備により、鉄道利用者数が増加しつつあり、かつ、豊田都心地区の歩行者数も増加しつつある		
・児ノ口公園・八幡公園等の整備や花を生かしたまちづくりを進めているものの、中心市街地全般で緑が少なく(都心中心部の緑被率は15%、都市計画区域の緑地率は67%)、地域資源(水や緑)を生かしたうるおいある空間の面的拡大や、積極的な緑化推進が望まれる。	駅周辺緑化推進等により、水と緑の環境を回復しつつある	うるおいある空間の一層の面的拡大が残されている	
・近年防災への関心が高まっており、中心市街地における暮らしやすさ(安全・安心)に留意した取組みの強化が望まれる。	基盤整備や公共の都心機能強化に際して、防災面や安全安心な暮らしへの対応に配慮した	防災は、まだ今後、住民意識の向上とともに、取り組む必要がある	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歩行者数が増加し、回遊性を回復しつつある	うるおいのある快適な都心環境、都心機能の強化を今後も継続する	
	質の高いユニバーサルな公共空間	質の高いユニバーサルな公共空間整備を今後も継続する	
	都市福利機能の充実による高齢化社会への対応、街全体の活性化	高齢化社会への対応、街全体の活性化のため、今後も都市機能を継続的に強化する	
	豊田都心地区の人口を回復しつつある	都心機能の更なる強化や市街地再開発等に、今後も取り組む	
	都心機能の強化や歩きやすい環境等の整備により、鉄道利用者数や歩行者数も増加しつつある	うるおいのある快適な都心環境、都心機能の強化を今後も継続する	
	駅周辺緑化推進等により、水と緑の環境を回復しつつある	今後も継続的に水と緑の環境整備に取り組む	
	防災面や安全安心な暮らしへの対応に配慮した	今後も、豊田都心地区の防災、暮らしの安全安心に取り組む	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	店舗の魅力化が残されている	市街地再開発や、老舗街道づくり等により店舗の魅力化に取り組んでいく	
	・回遊性はまだ不十分であり、一層の強化が残されている	回遊性を生み出すよう、都心機能の適切な配置を検討する	
	商業、業務、サービスの機能の集積度は依然として小さい	市街地再開発や、老舗街道づくり等により店舗の魅力化に取り組んでいく	
	一部、生活空間、緑陰歩道リニューアル等の未整備箇所を残した	次期の機会を捉え、生活空間、緑陰歩道リニューアル等の整備に取り組んでいく	
	総合・誘導・方向案内のサイン施設整備を延期した	次期の機会を捉え、サイン施設整備に取り組んでいく	
	豊田市産業文化センター駐車場の整備を延期した	次期の機会を捉え、整備を検討していく	
	防災は、まだ今後、住民意識の向上とともに、取り組む必要がある	豊田市総合計画、地域防災計画等に基づき、住民による地域防災力の向上を目指す	

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	歩行者通行量(平日)	人/日	22,578	H19	23,105	H25	確定	●	23,396	○	あり	→	H27年3月	従前値と同じ計測方法	
							見込み								
指標2	鉄道1日乗降客数	人/日	38,638	H19	39,038	H25	確定	●	41,779	○	あり	→	H26年5月	名古屋鉄道・愛知環状鉄道から提供される資料より、4月～翌3月の豊田市駅および新豊田駅の乗降客数の合計	
							見込み								
指標3	センター施設利用者数	人/月	5,700	H20	10,000	H25	確定	●	12,300	○	あり	→	H26年5月	中央福祉センター及び地域交流センターの利用者数	
							見込み								
指標4	満足度	-	-0.42	H19	-0.32	H25	確定	●	0.50	○	あり	→	H28年3月	平成27年度の市民意識調査(平成28年3月公表)より、「中心市街地活性化に対する満足度」の値を計測し、その値をもって確定値とする。	
							見込み								
指標5				H		H	確定				あり	→			
							見込み								
その他の数値指標1	センターコア地区における人口	人	16,922	H20			確定	●	18,580			→	H26年5月	「Web統計とよた」より、H26年4月時点の人口を計測	
						見込み	なし								
その他の数値指標2				H			確定	●				→			
						見込み	なし								
その他の数値指標3				H			確定	●				→			
						見込み	なし								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	総合的な都心機能の強化、歩きやすい回遊環境等整備に対して、総合的な視点から満足度を設定しその谷も幾つかの数値目標を設定したが、いずれも目標値を越えて達成することができた	満足度を指標として設定するように努める
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	都心機能強化と歩行空間の整備、公共空間の景観等に対して、センター施設利用者数、歩行者数、鉄道利用者数等を設定したため、整合性のある数値目標となった。	数値目標について、目標・事業との整合性に留意していく
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	まちづくり協議会との協働により、まちづくりについての住民意識が向上した。	行政と住民のパートナーシップを継続し、まちづくり活動を行っていく
	うまく いかなかった点		
PDCAIによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	庁内の関係課が横断的に計画策定、モニタリング、事後評価を共有して進めたため、豊田都心地区の課題認識や成果を共有し連携することができた。	今後も、庁内横断的な取り組みを進めていく
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

--

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市HPにおける原案掲載	平成25年11月27日～12月6日	平成25年11月27日～12月6日	持参、メール、ファックスによる意見書	都市整備課(都市再生整備計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	市報による公表の案内				
説明会・ワークショップ					
その他	窓口における原案閲覧	平成25年11月27日～12月6日	平成25年11月27日～12月6日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	豊田工業高等専門学校 野田宏治	平成25年12月20日(金)	都市整備課	まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	豊田まちづくり株式会社 中井久美 中区自治区長 田村進				

審議事項※1	委員会の意見
方法書	特になし
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標2「鉄道1日乗降客数」は、通勤者が増えた点もオフィスや店舗が増えたのか。この点も増えた原因の分析が欲しい。 ・ 指標3「センター施設利用数」の件は、センター施設のイベント数やイベント内容を分析して欲しい。 ・ 指標4「満足度」のヒアリング調査は、属性や指標がプラスへ転じた要因の分析が欲しい。 ・ その他数値指標1「人口」の増加については、人口の動きが分かるように、もう少し分析して欲しい。例えば、マンション戸数が増えたのか、都心地区の町丁目でどこが増えたのか、等。
実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打ち水は、道路舗装が保水性のものになったことをきっかけに始まったものであり、商店街が中心的な担い手である。 ・ 道路空間がきれいになって通行量が増えてきたことにより、商店街の人達の意識も変わりつつある。また、歩行者通行量を、毎年調査している。 ・ まちづくり協議会は、この地区の社長さん達で作っている「考える会」を母体とするもので、打ち水をやっている組織である。
事後評価手続き等にかかる審議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回遊しやすくなった、回遊性が向上したとの総合所見であるが、現実には、なかなか回遊していないと思う。駅から真っ直ぐに行くだけであり、周りになかなか行かない。例えばスタジアムでイベントがあれば、3万人が駅からスタジアムに直行するだけである。今後は、回遊を誘導するものが分散して必要である。 ・ ベビーカーは、以前から比べてよく見かけるようになった点は評価できる。ただし、松坂屋から西側へはなかなか行かない様子である。 ・ バス乗降場も東西それぞれにあり、東西の回遊が生じにくいのではないかと。どこに何があるのかの案内板(サイン)もまだまだ足りないと思う。
事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表は妥当と確認した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の変更は、東日本大震災の影響もあるのではないかと。また、来訪者の鉄道利用は、送迎バスが無くなって電車へと切り替わった方々かなり増えたのだと思う。数値の推移は理解する。 ・ バリアフリーの成果に関しては、ベビーカーのお母さん達を集めてグループインタビューをしてみたら、実際がよく分かるのではないかとと思う。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当と確認した。

今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗が少ない。また、店舗の魅力化は今ひとつというところである。 ・ 回遊性は、現実には、なかなか回遊するまでになっていない。 ・ 住民参加で道路整備がされてきたので、道路の掃除を住民がやるようになった点は、評価されると思う。 ・ バリアフリーは前進したが、まだ足りない部分も残っていると思う。再開発計画に反映すべきところである。また、駅前ロータリーのところでは、来訪者がエレベーターよりもスロープを使いたがる傾向にある。 ・ 人口が増加しているが、豊田都心に人口がさらに集中していく方策が欲しいところである。 ・ 防災(安全安心)面は、まだ改善点が残されている。電柱の地中化がなされていない箇所がある。豊田は大災害の経験が無いため意識が薄いからでもある。若い世代が地域に溶け込んでいない点も含めて、住民側の防災体制づくりも課題である。また、大震災時の帰宅困難者をどうするかも課題である。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当と確認した。
その他	特になし	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画事業評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第2回変更)

とよた と しん
豊田都心(センターコア)地区

あ い ち け ん と よ た し
愛知県 豊田市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	地区名	豊田都心(センターコア)地区	面積	290 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 25 年度				

目標
大目標: 多核ネットワーク型都市の中心を支える、都心(センターコア)機能の強化
目標1: 都心機能の強化により、賑わい・回遊性・拠点性の高い中心市街地の形成を図る。
目標2: 緑あふれる環境形成を共働で推進することにより、質の高い都心形成を図る。
目標3: 安全・安心機能の強化により、総合的な中心市街地の基盤強化を図る。

目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地区の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・名鉄三河線豊田市駅周辺は、豊田市の前進である挙母町の中心部であり、大正9年の三河鉄道挙母駅(現・名鉄三河線豊田市駅)の開業を契機に駅前通りを中心に商店などが並び始め、商店街を形成してきた地域である。 ・本市はこれまで当該地域を市の中心部として、市街地再開発事業をはじめとする基盤整備などにより都市機能及び行政機能の集約・集積を図ってきた。 ・その結果、現在の当該地域には、大型小売店舗を中核とする商業施設、美術館・コンサートホール・能楽堂・産業文化センターや総合体育館といった文化・スポーツ施設、国・県の機関をはじめ市役所本庁・保健所、図書館などといった公共施設などが集積している。 ・またその周囲には、サッカースタジアム、文化会館、総合公園などの公共施設が配置されている。 ●近年の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市はこれまで、昭和60年の「都心総合整備基本計画」、平成12年の「豊田市中心市街地活性化基本計画」による活性化事業として市街地再開発事業を中心とした社会資本整備に積極的に取り組んできた。 ・その間、豊田そごう、豊田サティの相次ぐ撤退等による経済的混乱に対応するため、緊急活性化対策及び都市再生整備計画等により、にぎわいの回復に努めてきた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●近年の豊田市駅周辺地区(211ha)における都市再生整備計画(平成16～20年度)に基づき、「中心市街地活性化 ～ユニバーサルデザインによる歩行者空間の再構築」を目標とする各種の取組みを行ってきたところであり、駅周辺のデッキ歩行者数や、中心市街地居住者数、駅周辺大型店舗売上高、鉄道駅乗降客数は増加傾向にあり、中心市街地活性化への一定の効果がみられるものの、以下の課題を有しており、さらなる活性化に向けて、有効な施策の実施が必要である。 ・商店街によるファサード整備事業、旧TMO(豊田まちづくり株)のチャレンジショップ事業をはじめとする商業活性化事業の展開を図ってきたが、市外への消費の流出が止まらない状態にあり、店舗の魅力化とともに、各店舗を回遊できる環境を作ることが必要である。 ・市街地再開発事業をはじめ道路や駐車場等の基盤整備を進めてきた結果、中心市街地のアクセス利便性や土地の有効利用の前提となる都市基盤は相当向上したものの、商業、業務、サービスの機能の集積度は小さく、40万都市の中心市街地としてはスケール感や多様性に乏しい。 ・昭和60年以降整備してきた都市基盤も一部更新が必要なものもみられるとともに、景観やユニバーサルデザインといった、これからの社会ニーズに適合した質を重視した公共空間の再構築と基盤づくりが求められる。 ・中央図書館、総合体育館など各種の都市福利施設の集積を推進してきたものの、今後の高齢化の進行や様々な生活志向を望む市民の増大を踏まえ、中心市街地で受け止める都市福利機能の充実を図り、街全体を活性化するための取組みが求められる。 ・人口の中心市街地離れが進行し、昭和40年代の3分の2まで減少しているとともに、若年層の流出により高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯の割合が高いことから、多様な居住ニーズに即した住宅宅地の供給を促し、中心市街地の活性化を支える人口を確保することが課題となる。 ・今後の高齢社会においては、自動車の利用が困難な人も増加してくるから公共交通機関への転換も求められ、公共交通機関によるアクセス性を向上させるとともに、歩行者を中心としたまちづくりが必要である。 ・児ノ口公園・八幡公園等の整備や花を生かしたまちづくりを進めているものの、中心市街地全般で緑が少なく(都心中心部の緑被率は15%、都市計画区域の緑地率は67%)、地域資源(水や緑)を生かしたうるおいある空間の面的拡大や、積極的な緑化推進が望まれる。 ・近年防災への関心が高まっており、中心市街地における暮らしやすさ(安全・安心)に留意した取組みの強化が望まれる。

将来ビジョン(中長期)
<ul style="list-style-type: none"> ●都市機能や生活機能を集積、又は維持集約する拠点と核(都心、産業技術核、拠点地域核、地域核)を、基幹交通(鉄道、路線バス、基幹バスなど)でネットワークすることによる、多核ネットワーク型都市構造の確立を図ります。(第7次豊田市総合計画) ●豊田市駅及び新豊田駅を中心とする地区は、都心として位置づけ、交通結節機能の強化、まちなか居住の誘導、高次の文化・交流機能や商業・業務機能の誘導など、都市機能の複合化・高度化の促進と併せて、水と緑の活用と創出を進め、市民、企業、来訪者全てに魅力的で、環境と調和した活力ある都市空間の形成を図ります。(第7次豊田市総合計画) ●都市基盤の整備による防災機能の充実など暮らしの安全の確立を図るとともに、子育てや介護などにかかる必要な支援などの自立・支え合いによる安心な暮らしの創出を図ります。(第7次豊田市総合計画) ●中心市街地は、3つの目標(活力)ににぎわいの創出、先進的な交通モデルを体感できる中心市街地の実現、緑に包まれた中心市街地の実現)からなる、将来像「緑の環境都市軸(スタジアムアベニュー)の創造」の実現をめざします。(豊田市中心市街地活性化基本計画) ●都心周辺を緑化重点地区に位置づけ、市の顔となる緑の拠点整備と緑化推進を図り、緑の増大を図ります。(豊田市緑の基本計画) ●中心市街地地区を景観重点地区に位置づけ、緑化推進と、市の顔にふさわしい文化的で質の高いまちなみ形成を図ります。(豊田市景観計画) ●豊田地区(中心部)は、中核拠点として、観光情報発信の充実・強化や、国内外から訪れるビジネス客等の観光客化を図るなど、来訪者の周辺観光地への誘客を図ります。(豊田市観光交流基本計画)

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者通行量(平日)	人/日	中心市街地内(5地点)の平日の歩行者通行量	拠点施設整備、商業集積、歩行・回遊環境整備により、歩行者の増大と賑わいの増大を図る。	22,578	H19	23,105	H25
鉄道駅1日乗降客数	人/日	豊田市駅および新豊田駅の乗降客数	駅周辺を利用しやすい環境づくりと、賑わい環境整備により、駅・鉄道利用の促進と周辺部回遊などの活性化を図る。	38,638	H19	39,038	H25
センター施設利用者数	人/月	地域交流センター・中央福祉センター利用者数	福祉拠点・地域交流拠点施設の整備により、都心における交流人口の増大を図る。	5,700	H20	10,000	H25
満足度	—	中心市街地活性化に対する満足度	駅周辺を利用しやすい環境づくりと、賑わい環境整備等各種事業の推進により、センターコア地区における中心市街地の活性	-0.42	H19	-0.32	H25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針① 総合的な都心機能の強化による賑わい・交流・安心環境の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民ニーズの高度化・多様化に対応した、拠点的な交流センター空間の整備(市民交流、多世代交流、情報発信、郷土学習等)により、活力あふれる中心市街地の形成を図る。 ●少子高齢化社会における都心機能の強化を図るため、福祉拠点施設および子育て・健康支援施設の整備充実を図る。 ●都心・中心市街地におけるバスサービスの維持増進を図り、賑わいを支える都市基盤の充実と移動しやすい環境形成を図る。 ●安永川の流下能力の強化を図る河川改修事業(トンネル事業)を進め、災害に強い中心市街地形成を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流センター整備 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央福祉センター整備 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)豊田市文化交流センター整備事業 ・中央保健センター整備事業 ・豊田市ふるさと歴史館整備事業 ・安永川流域水辺環境整備事業 ・中心市街地バス事業
<p>整備方針② 駅を中心とする賑わいと魅力あふれる回遊環境の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊田市駅の利用しやすい環境づくり(駅舎耐震化、バリアフリー化、動線強化、高架下のリニューアル)、駅周辺における歩行・回遊環境の魅力強化、および主要幹線道路の無電柱化により、駅を中心とする賑わい回遊環境の強化を図る。 ●市街地整備と高度利用の促進、高架下のリニューアル等により、都市機能の充実を図り、中心市街地における賑わい強化を図る。 ●冬の魅力創造事業や多彩な特色あるイベントの拡充・活性化など、中心部の活性化を図る特色ある周辺交流イベント事業について、継続的な実施と魅力の強化を図る。 ●まちなか宣伝事業や空き店舗対策等により来街を促進するとともに、まちづくり活動支援事業を通して市民と共働で魅力あふれるまちづくりを進める。 ●まちづくり事業活用調査の実施や都市交通システムの整備により、中心市街地としての交通拠点機能の向上を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道蔵前陣中線の無電柱化および高質空間整備 ・(都)豊田則定線の無電柱化および高質空間整備 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動支援事業(ワークショップ支援等) ・まちなか宣伝事業 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業 ・国道155号歩道整備検討事業 ・老舗街道・竹生線通りの活性化(店舗改築、空き店舗対策等) ・(仮)豊田市駅前通り北地区市街地整備事業 ・都市交通システム整備事業 ・冬の魅力創造事業
<p>整備方針③ 共働で推進する、緑あふれる高質な都心の環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毘森公園の整備などにより、中心市街地における水や緑を生かしたうおいある環境形成を図り、定住環境としての魅力強化を図る。 ●中央保健センター整備と併せて、中心市街地における公共施設の重点的かつ高質な緑地・緑化環境の整備推進を図る。 ●共働の取組みを推進し、緑化推進の機運と関心を高めていくため、駅周辺地区や路地的生活空間における創意工夫あふれる緑化推進を図る。 	<p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央保健センター環境整備事業(高質な緑環境の整備、屋上等緑化等) ・駅周辺緑化推進事業 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毘森公園整備事業
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 ・H14年に発足した、豊田まちづくり(旧TMO)などと共働で、計画策定、事業推進、イベント、コーディネート活動など継続的にまちづくり活動を進める。 ・まちづくり協議会等によるまちづくり活動を継続するとともに、行政と住民のパートナーシップを継続し、まちづくり活動を行っていく。 ○交付期間中の計画の管理について ・各種事業は、HPIにより広く市民に周知する。 ・また、中間評価・モニタリングなどを実施し事業の進捗状況や成果を把握し、事業の円滑な執行を管理する。 	

